建築主：国立大学法人千葉大学
設　計：工学部10号棟トイレ改修設計組織
施　工：日新建設株式会社
所在地：千葉市稲毛区弥生町１－33

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

機能的に使いやすい寸法を身につける

千葉大学工学部10号棟トイレ改修 “スケールを身につける”1：1トイレ

千葉大学構内・工学部校舎のトイレの改修事例である。設計を学ぶ建築学科の教育の一環として、学生のキャンパス環境に対する意識、ユニバーサルデザインに対する考え方を高める目的でコンペが実施され、その最優秀案に基づいて、実施設計・施工まで学生（建築コースに在籍する女子学生）が参加して行われたという、ユニークな事例である。

古い鉄筋コンクリート造校舎に出現した、明るく、ゆったりとしたトイレ空間。入口周りのデザインされたサインも心地よい。このトイレの最も大きな特徴は、壁・床・扉等いたるところに表示された寸法線である。日常生活動作と寸法の関係を常に意識し、スケール感を身に着ける仕掛けであり、学習の場としてよく考えられている。もう一歩、標準的なものだけではなく、高齢の人、障害を持った人に配慮した寸法（最小・最大・可視範囲等）を学ぶ工夫、特に多目的トイレに必要な情報を盛り込む工夫が欲しいところ。

大学という特殊条件の中の事例であるが、若者たちが自身の学ぶ環境を調査、研究し、機能だけではなく、美しい快適な環境をつくること、また明確なコンセプトを挙げ、それを実現していることを高く評価した。　（夏目幸子）

個室内の寸法デザイン

女子トイレ パウダーコーナー

（撮影/宗方　淳）

選　考　の　基　準

1. 千葉県内において完成（増築、改築、リフォームを含む）し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物（群）でこの表彰の趣旨に沿っているもの。
2. 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物（群）であり次のいずれかに該当するもの。
   ①地域の特性や周辺の環境に十分配慮され、建築物（群）と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
   ②概ね3年以上の創意工夫に富んだ継続的な景観づくり活動により、上記①の維持・向上が実現できているもの。
   ③だれもが、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、日常の生活や社会への参加が容易にできるような環境整備がされているもの。
   ④環境と共生する優れた社会資産を形成するために、エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して、健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
3. 建築基準法などの諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

千葉県建築文化賞選考委員会

委 員 長　北原　理雄：千葉大学大学院教授
副委員長　岩村　和夫：東京都市大学大学院教授
委員　青柳　英俊：社団法人千葉県建築士会会長
委員　岡部　明子：千葉大学大学院准教授
委員　夏目　幸子：建築家・NPO 住まい・まち研究会理事長
委員　藤本　香　：建築士・千葉大学非常勤講師

【敬称略　委員は五十音順】

第17回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。応募総数71点の中から4点が千葉県建築文化賞、3点が千葉県建築文化奨励賞に選定されましたが、応募作品はすべて優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携われた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。

（千葉県建築文化賞選考委員会事務局）